

ふうしゃだより

WINDMILL LETTER

2023.

お盆号

皆様こんにちは。日本風力エネルギー(株)です。

鳥取の夏の風物詩である「鳥取しゃんしゃん祭」が、新型コロナの5類移行を受け、4年ぶりに市街地開催となり、たくさんの色鮮やかな傘と輝いた笑顔で街が埋め尽くされましたね。

今回は、弊社が協賛し、鳥取西部の高校生と地域住民の方々が開催するイベント「Yume Fes～夢フェス～コロナで失った青春を取り戻す、高校生が作る夏フェス！」のチラシも入れております。とっとり花回廊での開催となります。

お越し頂けますと幸甚です。

注目コンテンツ

- ・鳥取大学農学部 日置佳之名誉教授「生態系の保全に配慮した開発とは？」
- ・日本海新聞企画広告「脱炭素社会の実現に向けて 地域と共生する風力エネルギー」
～青森県中泊町 濱館 豊光町長、尾別地区行政連絡員



弊社が計画しております「(仮称) 鳥取風力発電事業」は計画段階であり、風車の位置などは地域住民や専門家のご意見を頂きながら、進めてまいります。説明会や話し合いの機会を頂戴できますと幸甚です。環境影響評価方法書への知事意見として、「住民等一人一人にきちんと情報が届くように丁寧に説明をおこなうこと」が求められました。「ふうしゃだより」が情報提供の一端を担えるよう尽力してまいります。



20年間で数億円の寄付

中泊町 濱館豊光町長に聞く



地域再生の協定を締結した濱館町長（左）と
日本風力エネルギーの
ダニエル・アストバリ風力事業責任者

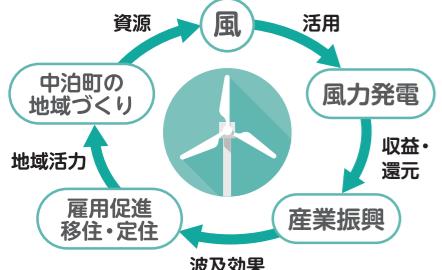
「青森県は風力発電の先進地で、その中でも中泊町は「風」を資源として、風力発電事業を積極推進されています。日本列島は北の日本海側にいい風が吹きます。中泊町のある津軽半島は、とてもいい風況です。

第1次産業で農業と漁業、大地の恵みと海の幸で地域振興を図りながら、もう一つの資源である風を風力発電でお金に換え、地域に落とし込んでいく。風力発電が農業、漁業と共に存続する理想的な事例となっています。

漁業にとって強い季節風や偏西風は大敵で、漁に出られません。その代わりに風車が動いてくれる、と考えています。黙っていれば頭の上を通り抜けていく風が、風力発電で地域を豊かにしてくれます。環境や自然など地

再生可能エネルギーを 次世代へ 風力発電で未来を拓く

エネルギーを 風力発電で未来を拓く



脱炭素社会の 実現に向けて

地域と共に生きる 風力エネルギー

中里風力発電所(青森県中泊町)



国有林に13基の風車が建つ中里風力発電所

地球にやさしい再生可能エネルギーとして、風力発電に熱い視線が注がれています。青森県は全国トップの風力発電の導入実績があります。津軽半島にある中泊町では昨年、日本風力エネルギーの「中里風力発電所」が完成しました。環境影響評価（環境アセスメント）に基づいて13基の風車を建設し、風の力でクリーンエネルギーを生み出しています。企業と地元がしっかりと手を結び、次世代へつなぐ風力発電事業、そして地域活性化が力強く動き出しました。

「風力発電の事業計画が発表され、地元の反応はどうでしたか。

地域とともににある風力発電

日本風力エネルギーは、万社ア太平洋地域で最大級の独立業者ヴィーナ・エナジー（本社・シンガポール）の日本法人傘下で、風力発電事業を展開しています。

中里風力発電所は国有林（24ha）に立地し、高さ175mの高層風車が点在しています。総出力は3万6千キロワットで、最大2万2千世帯への電力供給が可能です。脱炭素社会の実現が叫ばれる中、火力発電所と比較して温室効果ガスの削減（年間最大6万1千t）や節水効果（約8700万t）があります。

事業展開の中で、日本風力エネルギーは地域貢献を重視し、

中泊町と一地域共生のための寄付に関する協定」を締結しました。売電利益の一部が長期寄付（20年間）されます。年間3千万円～5千万円、設備利用率40%に達すると一律5千万円となり、総額6億円以上の見通しです。

いと思います。風車が回る音も静かで、家中では全く聞こえません。風車の近くの田んぼに出ても、強い日にはすこし聞こえる程度です。防災面でも安心しています。

一風力発電事業に伴って、地元への利益還元はありましたか。

地元が指定管理者となっている会場「老人憩の家」を改修してもらいました。床や窓、トイレなどかなり老朽化していましたが、予算が足りなくてそのままでした。日本風力エネルギーが中泊町に寄付した一部で直すことができて喜んでいます。

A man in a striped shirt and cap stands next to a stone lion statue in front of a traditional wooden building.

地域貢献活動に感謝

中里風力発電所の地元 藤森裕実さん（尾別地区行政連絡員）

中里風力発電所は現時点で日本最大級の高さがある風車を回していくますが、風切り音はとても静かです。災害や健康の不安もありません。いろいろな考えはあるかもしれませんけれども、地元に多大なメリットがあり、日本風力エネルギーに進出してもらつて感謝をしています。

日本風力エネルギーから直に支援してもらつて、地区内の神明宮の根を修繕しました。行政の予算を使用することはできませ
ん。本来なら地元で寄付を募りますが、各家の負担も大変です。少子高
齢化で空き家が増え、寄付集めが難しくなつてきましたから、本当にあ
りがたいことです。これからも日本風
力エネルギーの地域貢献活動に大き
い期待をしています。住民の要望も聞
きながら、打ち合わせていきた
いと思います。

話題のインタビュー

生態系の保全に配慮した開発とは？



鳥取大学農学部
名誉教授・特任教授

日置佳之 先生
ひ おき よし ゆき

大山隠岐国立公園をはじめ、鳥取県内外で生態系の保全・再生に関する研究と実践を行っています。鳥取県環境審議会長、湖山池環境モニタリング委員会長などを歴任されました。

Q

日置先生が専攻されている「生態工学」についてお教えください。

A

「生態工学」とは、人間が壊した生態系を再生させる、いわば、生態系の臨床医のような技術分野です。

人間の開発行為は、一般に「負」の影響を与えることがあります、時には「正」の影響を与えることもあります。開発行為が生態系にどのような影響があるかを客観的に調査・評価し、負の影響の最小化を図ったり、または破壊されてしまった生態系を修復・再生したりして、生態系を出来る限り健全に保っていく必要があります。それが即ち、「持続可能な開発」ということに繋がっていきます。

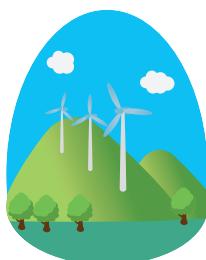
Q

風力発電所の建設における生態系への影響に対する
お考えをお聞かせください。

A

風力発電所によって作られる再生可能エネルギーは気候変動を緩和するので、環境への「正」の影響であると言える一方、開発地域を局所的に見ると、開発による生態系の変化が人間の生活環境や自然環境（生態系）にも負の影響があるので、その影響を最小化するために、環境アセスメント（評価）をしっかりする必要があります。

風力発電所の開発においては、まず、貴重な動植物や生態系がある場所を回避する必要があります。また、鳥類、特に猛きん類への影響（バードストライク：風車への野鳥の衝突）を最小化することも重要です。そのため、実際に現地に入って生息域で調査することはもちろん重要ですが、私たちは「潜在的生息地確率」を算出して、猛きん類がその場所にどれくらい生息する可能性があるかを推定しています。



「潜在的生息地確率」は、評価対象種の存在情報（例えば、地域の野鳥保護団体が長年観察して、対象となる野鳥を目撲した地点）などを目的変数とし、さまざまな環境情報（森林率、道路からの距離、土地の傾斜度など）を説明変数として、生息確率を算出するものです。

このような事前評価によって、影響が大きな地域を予め回避することが、野鳥類の保護に効果的だと考えられます。

Q

風力発電所の建設における土木工事の影響に関して
お考えをお聞かせください。

A

風力発電機（風車の羽根やタワー）を運搬するために、道幅が広い道路が整備されることになります。

日本風力エネルギーの開発地域が人工林域の場合、施業〔間伐などの手入れや、主伐（最終的に林木を収穫するため樹木を伐採すること）〕に、道路を活用できれば、林業にとっては役立つインフラになりそうです。

一方、山地に大規模な道路を建設する際には、防災や景観への配慮が必要です。

そのため、土地造成の最小化や法面緑化が推奨されています。法面緑化においては、外来種の吹き付けではなく、従来からその森林に生息する植物の育成を待つ「待ち受け型緑化」や地元の種のみを使用する地域性種苗緑化など、元来の生態系を保全することも考えた緑化手法が望ましいです。